

Ⅰ 利用にあたって

Ⅰ-1 くまもとグリーン農業とは

熊本県では、温暖な島しょ部から山間高冷地まで変化に富んだ気象条件や立地条件を生かして多様な農業生産が営まれている。

農業は、農業生産活動を通じて美しい景観形成や水資源のかん養など、環境保全上の多面的な機能を有する一方で、化学肥料や農薬の多用等による河川や地下水等の水質汚濁や富栄養化など、環境に対する大きな負担も指摘されている。

特に、本県は、生活用水の約80%（熊本市とその周辺市町村においてはほぼ100%）を地下水で賄っている豊かで美しい水資源の宝庫であり、この水資源を県民共通の財産として後世に伝承していかなければならない。

一方、消費者においては、環境問題や食の安全に対する関心が高まる中、農業においても生産の効率性のみでの追求だけではなく、消費者ニーズに対応し、かつ、環境に配慮した農産物づくりの視点が求められている。

本県では、平成2年度に「熊本県土づくり・減農薬運動推進本部」を設置して、全国に先駆けて土づくりを基本に化学肥料や農薬の使用を極力減らした環境保全型農業に取り組んできたが、平成17年度からは、本県の特性を生かした環境保全型農業への取組を「くまもとグリーン農業」として積極的に推進している。

また、近年では、農業が有する環境保全機能の向上等を通じて地球温暖化防止や生物多様性の保全等の環境問題に積極的に貢献するという新たな視点での取組も必要になってきている。

このような状況を踏まえ、本県では「くまもとグリーン農業」を推進し、生産側では「環境にやさしい施肥技術」を含め、環境保全型農業の技術の構築、確立した技術の普及を図ることで「くまもとグリーン農業」の生産の安定と拡大を推進することとしている。

さらに、消費者にも「くまもとグリーン農業応援団」となることを働きかけ、「生産者」と「応援者」一体となった取組を推進することにより「生産者」の経営を安定させながら、「くまもとグリーン農業」を県内に広く定着させることで、きれいで豊かな熊本の地下水と自然環境を守ることを目指している。



くまもとグリーン農業

Ⅰ-2 本書の概要

本書は「くまもとグリーン農業」の推進にあわせ、施肥における環境負荷の低減を達成しつつ、本県が国産農産物の重要な供給県であることから、生産コストの低減、土づくりを基本とした適正な土壌管理によって良質な農産物の安定供給を達成することを目標に、主要な作物について、土づくりを基本として、土壌診断・堆肥の施用・減肥技術・施肥設計について解説している。

利用者としては、農業者、県農業普及指導員、市町村・JAの営農指導等で農業者を直接指導する担当者、行政担当者及び農業関係機関の技術者などを想定している。